

第51回景況アンケート調査 結果報告書

(令和3年7月30日作成)

足利商工会議所

足利市通3丁目2757
Tel.0284-21-1354 Fax0284-21-6294

《令和 3年4月～6月期》実績
《令和 3年7月～9月期》見通し

調査要領

1. 調査目的

本調査は、当所管内事業所の経済動向及び現状を把握し、今後の経営支援や関係機関への施策、要望等の参考に資することを目的とする。

2. 調査期間

令和3年6月21日(月)～令和3年7月14日(水)

3. 調査対象企業

足利商工会議所議員事業所、足利地区雇用協会事業所など市内主要企業213社
(うち回答企業数171社：回答率80.3%)

4. 回答企業数

製造業	61社
繊維工業	16社
建設業・設備工事業	24社
卸売業・小売業	34社
飲食業・サービス業	36社
計	171社

5. 景況指数DIについて

分析方法[景況動向指数(DI)による]

景況指数は、好況・不況の差を指数にしたものであり、基準指数が「0」で、上限はプラス100・マイナス100となり、プラスは景況の好転(増加)、マイナスは景況の悪化(減少)をあらわしている。

DIについては数値の水準のみならず、数値の変化がどういう方向を向いているかが重要になっている。

DI方式は、
$$\frac{3x - 3z}{3x + 4y + 3z} \times 100$$
により算出

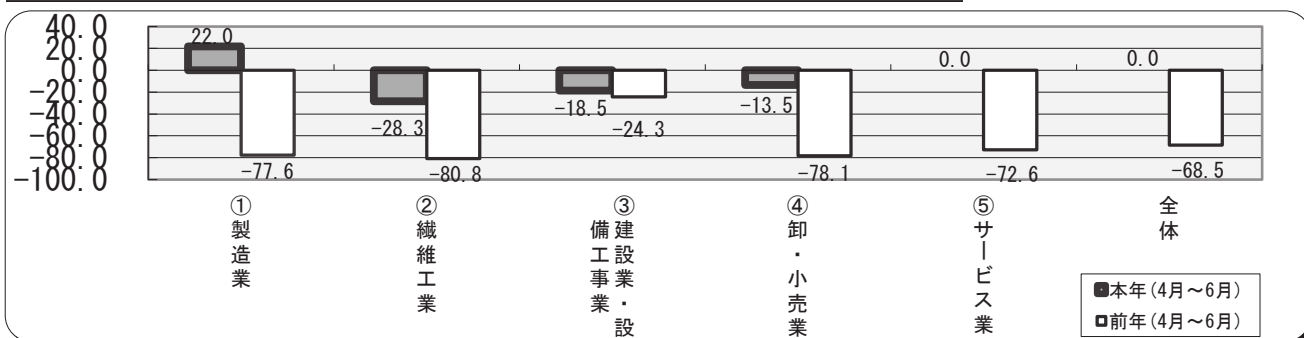
x：「好転」「増加」「上昇」等の回答企業数

y：「普通」「適正」の回答企業数

z：「悪化」「減少」「下落」等の回答企業数

I. 当期（4月～6月）の景況について

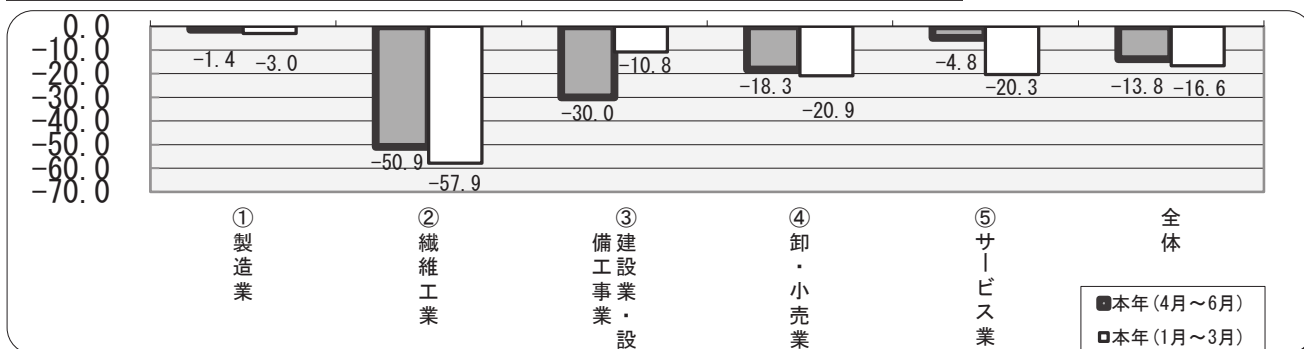
1. 当期の業況は前年同期（1年前）に比べて



【業況D I】

当期の業況D Iは、全体では0.0ポイント（前年同期▲68.5）と、前年同期に比べて68.5ポイントマイナス幅が縮小し、基準値まで改善した。業種別でも、すべての業種でマイナス幅が減少し、特に製造業では22.0ポイントと、前年同月に比べると99.6ポイント上昇し、昨年よりも好転したと回答する企業が多かった。

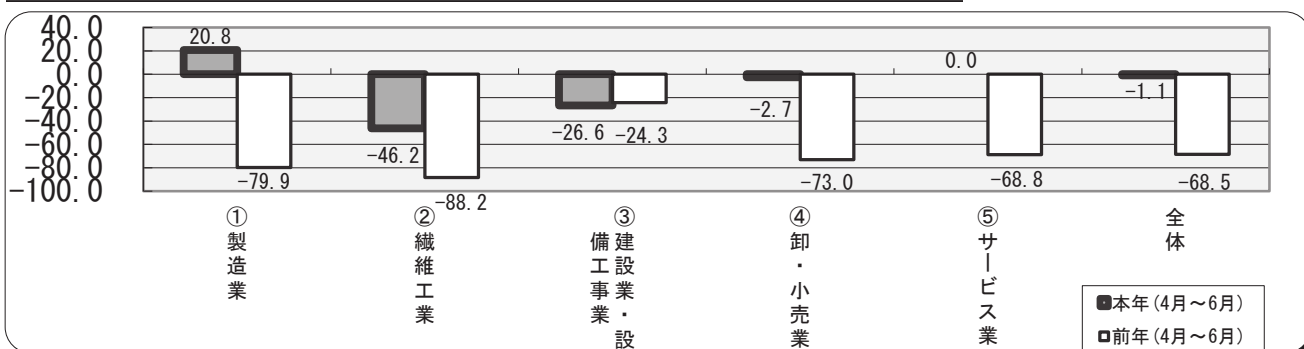
2. 当期の業況は前期（3ヵ月間）に比べて



【前期（前3ヵ月間）業況D I】

当期の業況D Iは、全体では▲13.8ポイント（前期▲16.6）と、前期（前3ヵ月間）に比べて2.8ポイントマイナス幅が縮小した。業種別では、製造業が1.6ポイント、繊維工業が7.0ポイント、卸・小売業が2.7ポイント、サービス業が15.5ポイントマイナス幅が縮小したが、悪化状況は続く。建設業・設備工事業では▲19.2ポイントマイナス幅が拡大し、悪化傾向にある。

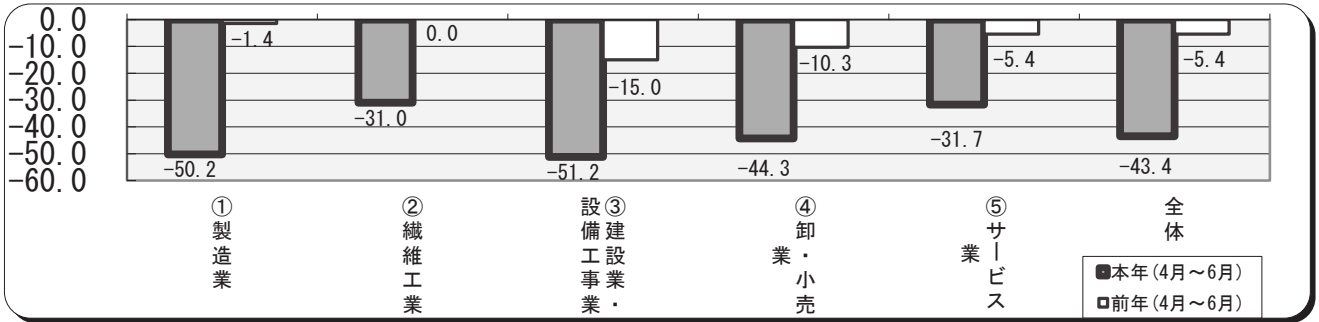
3. 売上高は前年同期に比べて



【売上高前期D I】

売上高D Iは、全体では▲1.1ポイント（前年同期▲68.5）と67.5ポイントマイナス幅が縮小している。業種別では、製造業では、20.8ポイントと100.7ポイントプラスに転じ、回復傾向にある。繊維工業は42.0ポイント、卸・小売業では、70.3ポイント、サービス業は68.8ポイントとマイナス幅は縮小しているが、依然として悪化傾向が続く。建設業・設備工事業においては、▲2.3ポイントマイナス幅が拡大し、前年同期よりも悪化した。

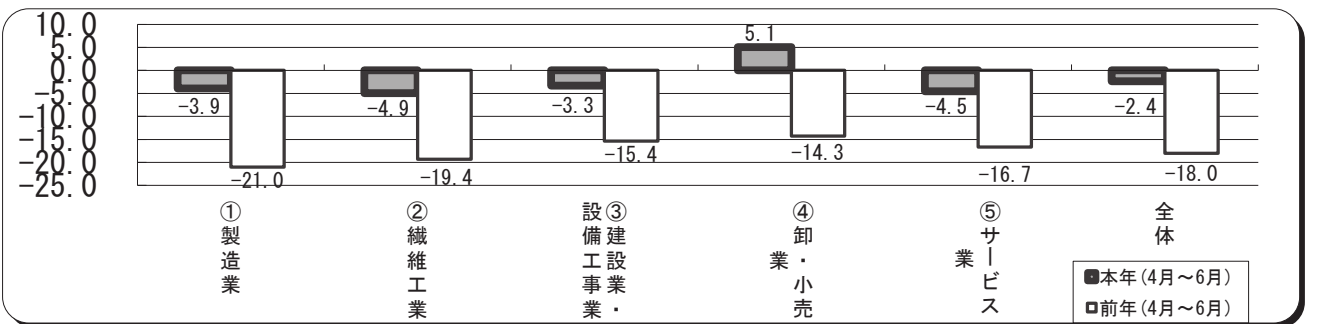
4. 仕入価格（原材料）は前年同期に比べて



【仕入価格（原材料）D I】

仕入価格（原材料）D Iは、全体では▲43.4ポイント（前年同期▲5.4）と前年同期に比べて38.0ポイントマイナス幅が拡大した。全業種でマイナス幅が大幅に拡大しており、全体的に仕入価格が上昇しているようだ。

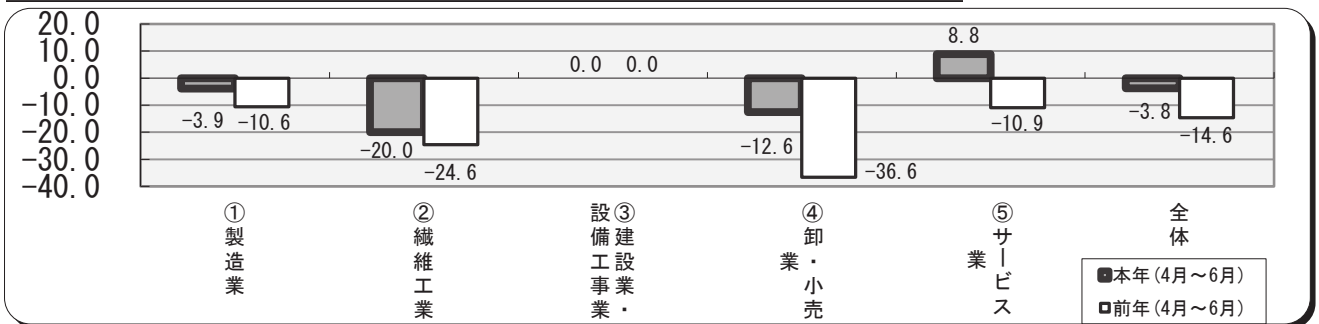
5. 受注・販売価格は前年同期に比べて



【受注・販売価格D I】

受注・販売価格D Iは、全体では▲2.4ポイント（前年同期▲18.0）と前年同期と比べ15.6ポイントマイナス幅が縮小した。業種別でも、ほとんどの業種で下落の傾向が続く一方、卸・小売業は50.1ポイントで前年同期と比べ19.4ポイントプラスに転じ、受注・販売価格に回復の兆しが見られる。

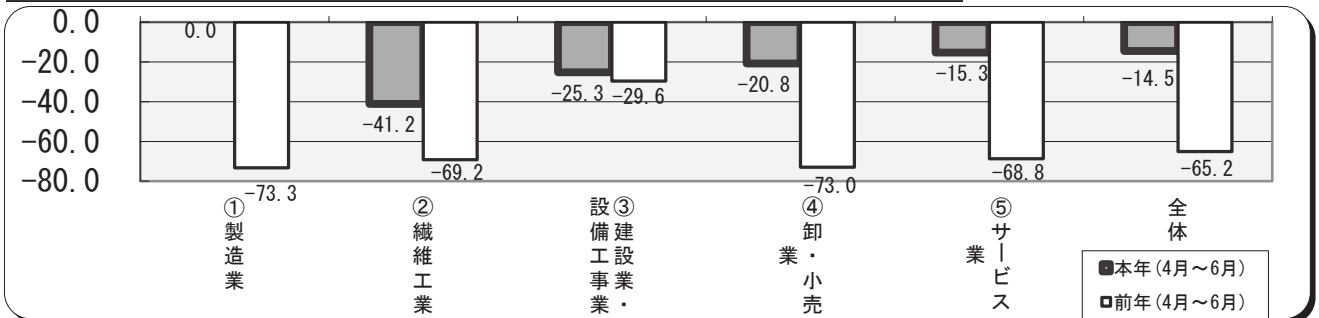
6. 当期の製品（材料）在庫は前年同期に比べて



【在庫D I】

当期の製品（材料）在庫D Iは、全体では▲3.8ポイント（前年同期▲14.6）と、前年同期に比べて10.8ポイント回復した。業種別では、建設業・設備工事業は昨年同様適正と答える事業所が多く、その他の業種でもマイナス幅が縮小されたが、依然不足の様相。サービス業のみプラスへ転じ、在庫過多の傾向にある。

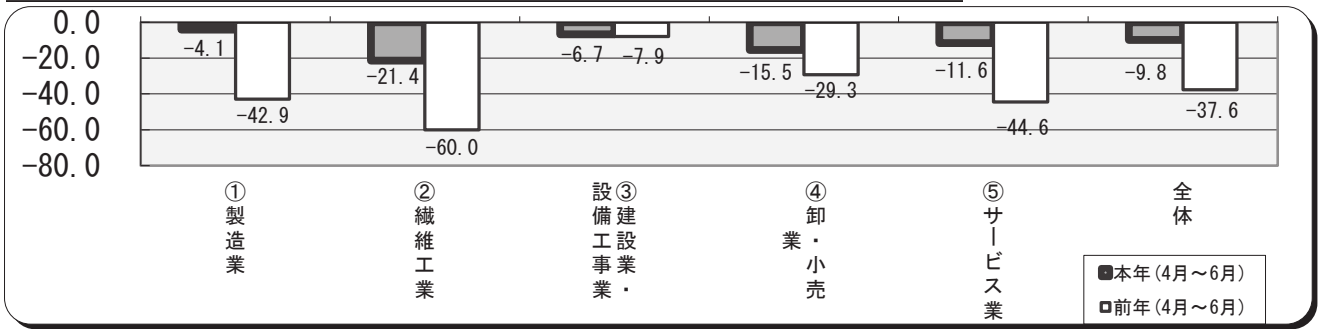
7. 利益状況は前年同期に比べて



【利益状況D I】

利益状況D Iは、全体では▲14.5ポイント（前年同期▲65.2）と、前年同期と比べて50.7ポイントマイナス幅が縮小。業種別では、すべての業種でマイナス幅が縮小しており、製造業、卸・小売業、サービス業で前年同期と比べマイナス幅が大きく回復した。

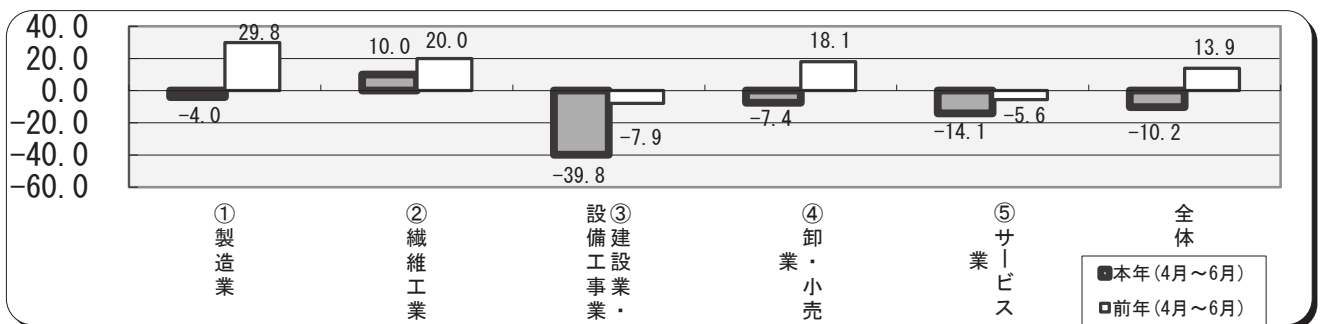
8. 資金繰りは前年同期に比べて



【資金繰りD I】

資金繰りD Iは、全体では▲9.8ポイント（前年同期▲37.6）と、前年同期と比べて27.8ポイントマイナス幅が縮小した。全業種でマイナスではあるものの、縮小の傾向があり、前年同期と比べ回復している。

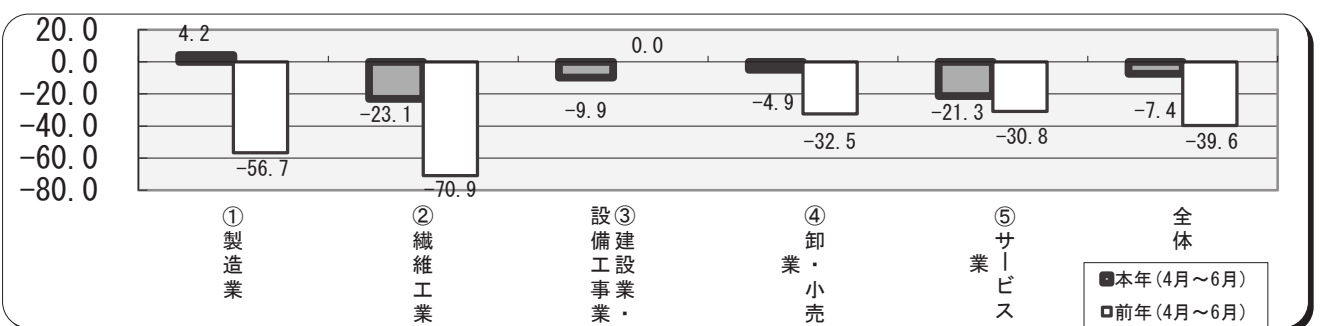
9. 労働力は前年同期に比べて



【労働力D I】

労働力D Iは、全体で▲10.2ポイント（前年同期13.9）と、前年同期に比べて▲24.1ポイント悪化しマイナス幅が拡大した。業種別では、全業種でマイナス幅が拡大し、特に建築業・設備工事業で労働力の不足が見られる。

10. 設備稼働率は前年同期に比べて

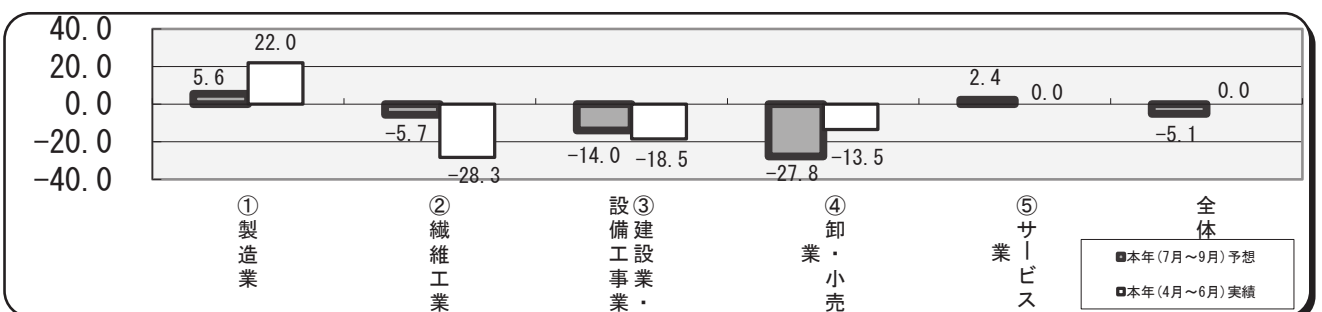


【設備稼働率D I】

設備稼働率D Iは、全体で▲7.4ポイント（前年同期▲39.6）と、前年同期に比べて32.2ポイントマイナス幅が縮小。業種別では、建設業・設備工事業が前年同期と比べ▲9.9ポイント悪化、その他の業種ではマイナス幅が縮小してはいるものの、依然低下傾向。製造業においては4.2ポイントと60.9ポイントプラスに転じ、稼働率が上昇した。

II. 今後3ヵ月間(令和3年7月~9月)の推移の予想について

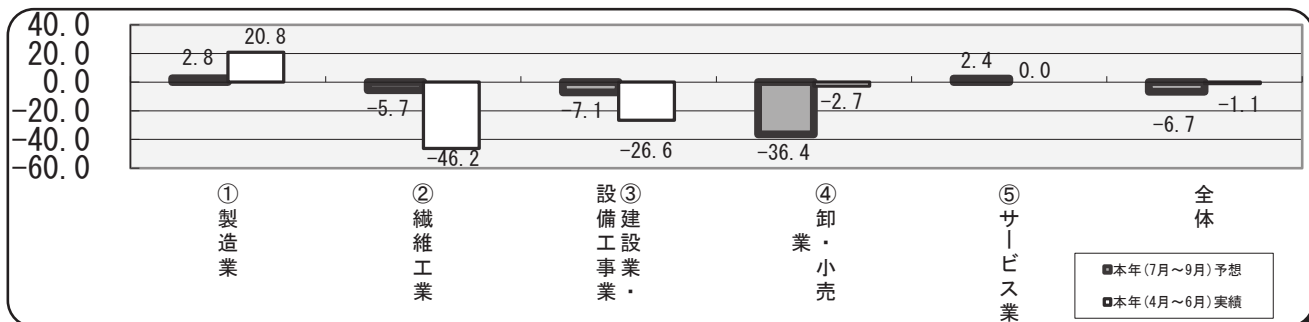
11. 業況は当期(4月~6月期)に比べて



【業況(当期に比べて) D I】

今後3ヵ月間の先行き見通しD Iは、全体で▲5.1ポイント(当期0.0)と、▲5.1ポイントマイナス幅がやや拡大した。業種別では、繊維工業、建設業・設備工事業いずれも悪化の傾向にあるが、サービス業ではプラスに転じ上昇する傾向。製造業、卸・小売業においては悪化すると予想する回答が多い。

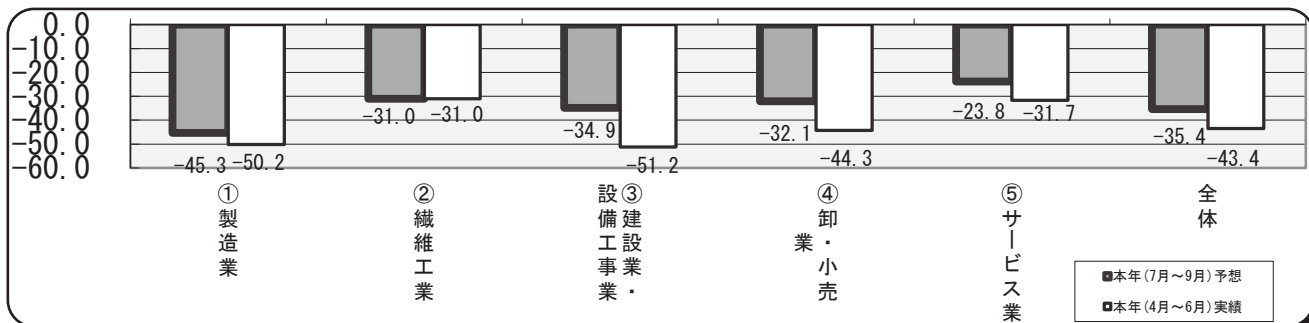
12. 売上高は当期(4月～6月期)に比べて



【売上高(当期に比べて) D I】

売上高D Iは全体で▲6.7ポイント(当期▲1.1)と5.6ポイントマイナス幅が拡大する見込みで、依然マイナス傾向。業種別では、繊維工業40.5ポイント、建設業・設備工事業19.5ポイント、サービス業2.4ポイントとマイナス幅が縮小される見込みだが、製造業18.0ポイント、卸・小売業33.7ポイントとマイナス幅が拡大し、売上げは減少する見込み。

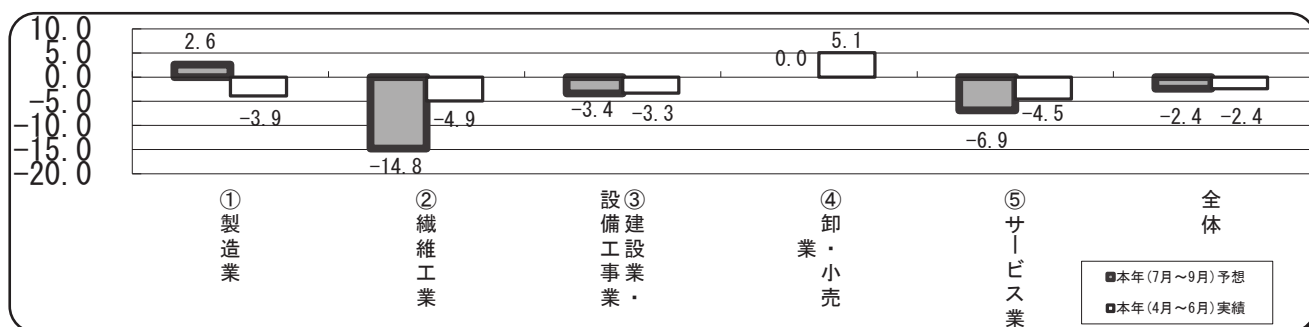
13. 仕入価格(原材料)は当期(4月～6月期)に比べて



【仕入価格(原材料) D I】

仕入価格(原材料)D Iは全体で▲35.4ポイント(当期▲43.4)と、8.0ポイントマイナス幅が縮小する見込み。業種別では、製造業、建設業・設備工事業、卸・小売業、サービス業はマイナス幅が縮小、繊維工業は横ばいだが、いずれの業種も価格の上昇が続く見込み。

14. 受注・販売価格は当期(4月～6月期)に比べて

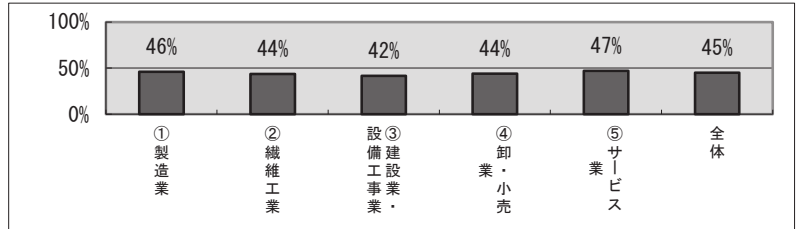


【受注・販売価格D I】

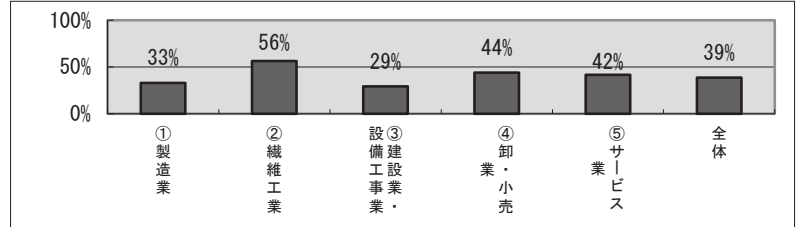
受注・販売価格D Iは全体で▲2.4ポイント(当期▲2.4)と、マイナス幅は横ばいの見込み。業種別では、製造業が6.5ポイントプラスに転じ、上昇すると予想する一方で、繊維工業、建設業・設備工事業、卸・小売業、サービス業ではマイナス幅が拡大し、価格の低下を見込んでいる。

Ⅲ. 当期直面している経営上の問題点

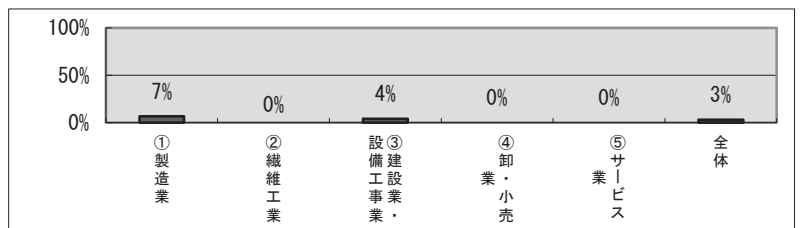
1. 経営の見通し（将来性）	
①. 製造業	28
②. 繊維工業	7
③. 建設業・設備工事業	10
④. 卸売業・小売業	15
⑤. サービス業	16
全 体	76



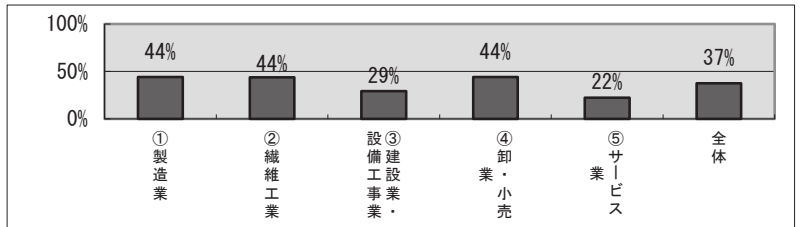
2. 売上（受注）の低下	
①. 製造業	20
②. 繊維工業	9
③. 建設業・設備工事業	7
④. 卸売業・小売業	15
⑤. サービス業	14
全 体	65



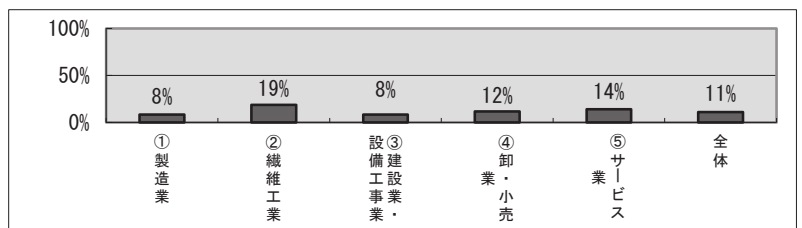
3. 工賃（請負）単価の低下	
①. 製造業	4
②. 繊維工業	0
③. 建設業・設備工事業	1
④. 卸売業・小売業	0
⑤. サービス業	0
全 体	5



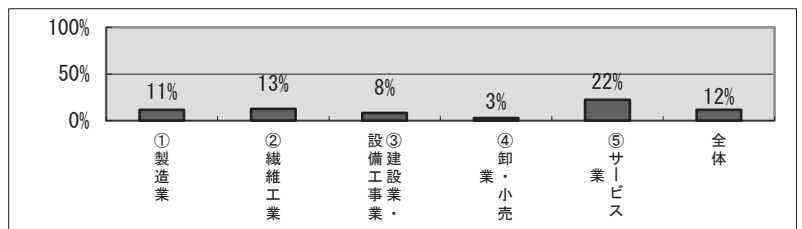
4. 原材料（商品）仕入価格の上昇	
①. 製造業	27
②. 繊維工業	7
③. 建設業・設備工事業	7
④. 卸売業・小売業	15
⑤. サービス業	8
全 体	64



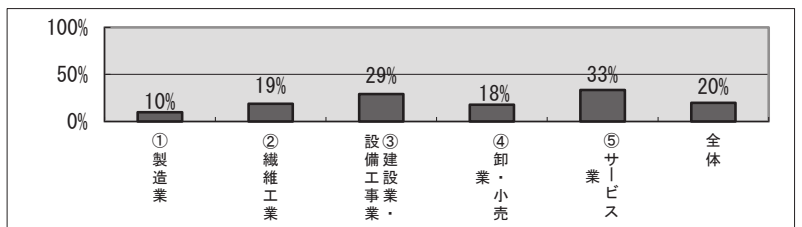
5. 資金繰りの悪化（資金調達など）	
①. 製造業	5
②. 繊維工業	3
③. 建設業・設備工事業	2
④. 卸売業・小売業	4
⑤. サービス業	5
全 体	19



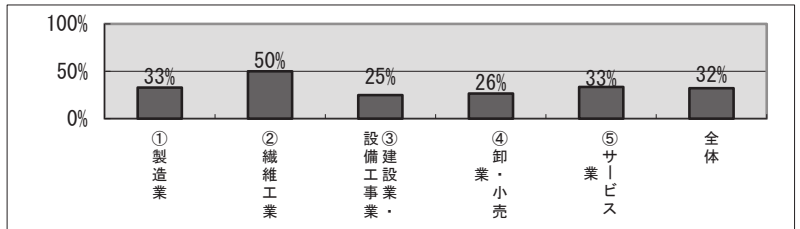
6. 既存事業の立て直し（コスト削減等）	
①. 製造業	7
②. 繊維工業	2
③. 建設業・設備工事業	2
④. 卸売業・小売業	1
⑤. サービス業	8
全 体	20



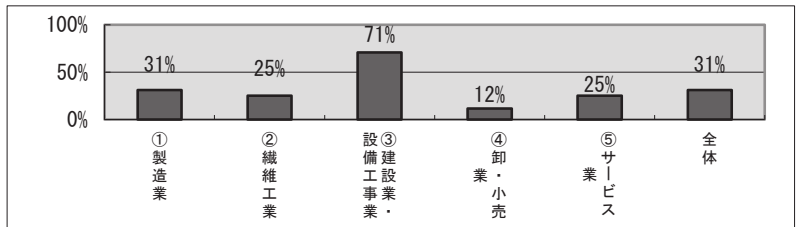
7. 経費（人件費・外注費）の増加	
①. 製造業	6
②. 繊維工業	3
③. 建設業・設備工事業	7
④. 卸売業・小売業	6
⑤. サービス業	12
全 体	34



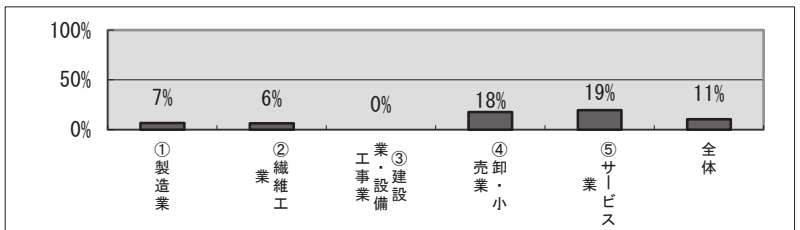
8. 設備・店舗・工場等の老朽化		
①. 製造業		20
②. 繊維工業		8
③. 建設業・設備工事業		6
④. 卸売業・小売業		9
⑤. サービス業		12
全	体	55



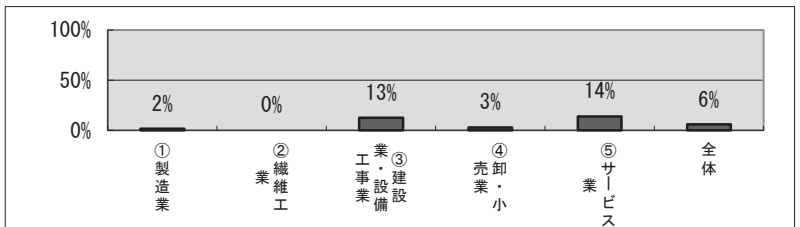
9. 従業員・技術者等の確保難		
①. 製造業		19
②. 繊維工業		4
③. 建設業・設備工事業		17
④. 卸売業・小売業		4
⑤. サービス業		9
全	体	53



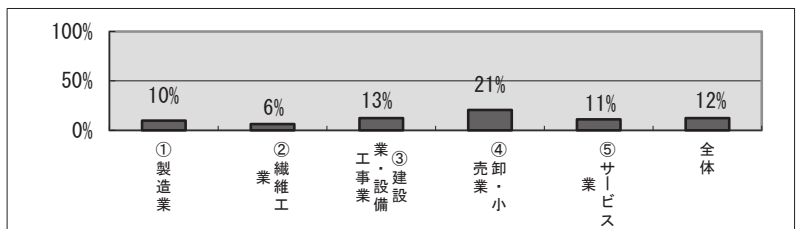
10. 消費者（製品）ニーズの変化		
①. 製造業		4
②. 繊維工業		1
③. 建設業・設備工事業		0
④. 卸売業・小売業		6
⑤. サービス業		7
全	体	18



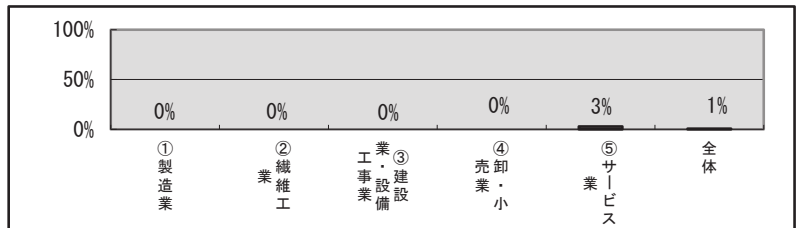
11. 業者間(大企業進出・新規参入)競争の激化		
①. 製造業		1
②. 繊維工業		0
③. 建設業・設備工事業		3
④. 卸売業・小売業		1
⑤. サービス業		5
全	体	10



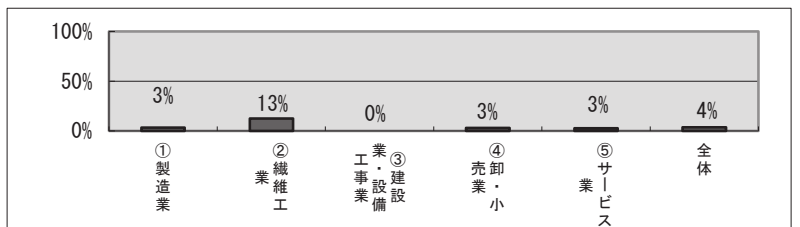
12. 後継者難と事業承継		
①. 製造業		6
②. 繊維工業		1
③. 建設業・設備工事業		3
④. 卸売業・小売業		7
⑤. サービス業		4
全	体	21



13. 円の動向による影響		
①. 製造業		0
②. 繊維工業		0
③. 建設業・設備工事業		0
④. 卸売業・小売業		0
⑤. サービス業		1
全	体	1



14. 電気料金値上げに伴う対応		
①. 製造業		2
②. 繊維工業		2
③. 建設業・設備工事業		0
④. 卸売業・小売業		1
⑤. サービス業		1
全	体	6



【経営上の問題点】

経営上の問題点では、全体で「経営の見通し（将来性）」を挙げた企業が45%で最も高く、次いで「売上（受注）の低下」（39%）、「原材料（商品）仕入価格の上昇」（37%）、「設備・店舗・工場等の老朽化」（32%）、「技術者（従業員）の確保難」（31%）と続いている。

業種別では、「経営の見通し（将来性）」をほとんどの業種が問題点として挙げており、また、建設業・設備工事業では、「技術者（従業員）の確保難」（71%）が大きな課題となっている。

3か月前と比較して、建設業・設備工事業の業況が悪化していることからウッドショックの影響が懸念される。また、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の実施に伴い長引く活動制約が足かせとなっている小売業や観光関連のサービス業は、業況改善が見通せないことから、低調な動きが続いている。

【景況に関することや直面している問題点等のコメント】

◎製造業

- ・ まだまだコロナ禍なので対面営業ができず、仕事に繋がらない。
- ・ 鋼材価格の異常な高騰に加え品不足（入荷がない）。自動車関連、依然として半導体不足の影響にて減産あり。7月はオリンピック・パラリンピックにて物流が止まる懸念。
- ・ 禁酒令のもと、酒税の支払いに疑問を感じる。
- ・ 遊休地（工場）の有効活用。
- ・ 工業製品は不透明であり、自動車関連も国内生産は落ちたままです。回復の見込みは2～3年無理？
- ・ 前年4～6月は巣ごもり需要があったが、今年の4～6月は各地域、各世代でもコロナに対する意識が異なり、内外に対する消費者マインドに統一感がなく、売上同月比減が続く。コロナ収束までは微増減で売り上げは行き来するが利益は目減りしていく。
- ・ 一部大手メーカーは国際的な原材料不足に備えて、実需以上に在庫を積み増している模様。原材料不足はコロナ禍に伴う船舶の船行数の減少が起因していると思う。さらにここ最近の景気回復に伴う需要増加で日本向けの船舶が米中向けに振り向けられ、日本の原材料購入は当面薄氷を踏む状態が続くと思われる。
- ・ 原材料の値上げ、供給、物流の滞り。
- ・ 外国人実習制度を利用していますが、新規外国人の入国がままならず、いつ来日できるのか全くわからない。

◎繊維工業

- ・ 取引先が岡山の商社や専門店のため、売上についてはあまり影響なし。また、市内生産ではなく、下請工場生産のため、コスト削減など社内がよく廻っている。

◎小売業

- ・ 贈答品の減少。
- ・ 前年同期がコロナ禍の混乱の真只中にあり低迷したため、比較すると当期は回復しているように見えるが、実態はあまり芳しくない。

◎飲食・サービス業

- ・ 昨年からスタートした新規事業が今年に入り安定した。一方仕出し関連、外食部門においては、相変わらず厳しい局面に立たされており、早めに対策を講じてもらいたい。
- ・ 半導体、プラスチック、物流等による商品不足。
- ・ 現況にてオリンピック・パラリンピックによるコロナの拡大が心配。万全なる予防措置の実施を働きかけてもらいたい。
- ・ 大店立地法が影響している。カスタマーサービスの大競争。

◎ 建設・設備業

- ・ 材料の上昇による販売価格設定。

◎ 卸売業

- ・ 教育・育成、健康経営への取組み。
- ・ ウッドショックによる材の価格上昇と入荷が難しいことによる在庫量の増加と種類の増加。今後の取引の買い控えが危惧される状況です。（価格大幅上昇のため）

足利市のチラシ折込調査レポート (2021.05)

調査地：足利市伊勢町

2021年5月の足利市の折込広告枚数は322枚で前年比プラス94.4%（前々年比はマイナス22.7%）【※栃木県4地区平均では322.0枚、前年比+94.9%】となり、コロナ禍の影響を強く受けた前年を大きく上回った。

※栃木県4地区…足利・宇都宮・那須塩原・小山

サイズ別では、B4(A4)サイズが最も多く全体の58.6%であった。次いでB3(A3)サイズの37.5%となり2種類のサイズが9割以上を占めた。また曜日別では、土曜日が最も多く全体の24.6%に上り、次いで水曜日の17.1%、火曜日の15.0%、金曜日、日曜日、木曜日、月曜日と続いた。

業種別では**食品スーパー**が70枚（前年比+250.0%）で、先月に引き続き首位となった。2位は**医薬・化粧品**で45枚（前年比+73.1%）、3位は**家電・精密機器**で23枚（前年比+475.0%）であった。4位は**衣料用品店**で22枚（前年比+46.7%）、5位は**輸送機器**で14枚（前年比+133.3%）となり、上位5業種全てで前年を大幅に上回った。

		12月	1月	2月	3月	4月	5月
足利	枚数(枚)	375	305	268	357	329	280
	前年比(%)	4.7	▲14.3	▲21.4	7.5	68.7	94.4
	前々年比(%)	▲12.8	▲26.0	▲25.1	▲27.0	▲21.3	▲22.7
栃木県平均	枚数(枚)	399.5	346.5	303.8	386.8	368.0	322.0

※栃木県平均…宇都宮・那須塩原・足利・小山地区の平均枚数

業種別出稿枚数ランキング(足利市)

(2021年5月1日～31日)

順位	業種(細分類)	枚数			前年比(%)	前々年比(%)
		21年	20年	19年		
1	食品スーパー	70	20	90	+250.0	-22.2
2	医薬・化粧品(ドラッグストア・通販等)	45	26	41	+73.1	+9.8
3	家電・精密機器	23	4	25	+475.0	-8.0
4	衣料洋品店	22	15	34	+46.7	-35.3
5	輸送機器(自動車・カー用品等)	14	6	15	+133.3	-6.7

サイズ別枚数(2021年5月1日～31日)

サイズ別				
B1(A1)	B2(A2)	B3(A3)	B4(A4)	B5(A5)
0	7	105	164	4
0.0%	2.5%	37.5%	58.6%	1.4%

曜日別枚数

(2021年5月1日～31日)

曜日別						
日	月	火	水	木	金	土
37	19	42	48	26	39	69
13.2%	6.8%	15.0%	17.1%	9.3%	13.9%	24.6%

調査：(株)栃木読売 IS